SURE 静岡大学学術リポジトリ
Shizuoka University REpository

研究会記録

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学人文社会科学部翻訳文化研究会 公開日: 2023-03-24 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/00029590

【研究会記録】

第１回例会（2005・10・20）
ロシア語訳『奥の細道』について　田村　充正
第２回例会（2005・11・15）
Gabriel García Márquez, *Memoria de mis putas tristes* と
　川端康成『眠れる美女』　花方　寿行
第３回例会（2005・12・15）
朱天心「古都」をめぐって　桑島　道夫
第４回例会（2006・１・26）
〈翻訳〉の政治性
　――戦時期における朝鮮文学の翻訳をめぐって　南　富鎮
第５回例会（2006・２・９）
Michael Palmer との共訳による野村喜和夫の作品紹介　山内功一郎
川端康成『雪国』の「底」の訳をめぐって――隠喩の翻訳をめぐる一考察
今野喜和人
川端文学研究会第33回大会シンポジウム参加（於・武蔵野大学、2006・６・18）
今野喜和人、花方　寿行、桑島　道夫
第１回講演会（2006・10・５）
旅と翻訳　野村喜和夫
第６回例会（2006・11・30）
よしもとばなな『ハゴロモ』　トーマス・エゲンベルグ
第７回例会（2007・２・22）
原作と映画の微妙な関係――『トリスターナ』をめぐって　花方　寿行
第２回講演会（2007・３・15）
『伊豆の踊子』翻訳を考える
　――日英翻訳における問題と傾向　アンガス・ターヴィル
第８回例会（2007・11・７）
中国における戦後日本文学の受容　桑島　道夫
第３回講演会（2008・２・15）
グローバル資本主義時代の文学
中国社会科学院外国文学研究所所長・陳衆議（通訳・桑島道夫）

中国における日本の現代文学――大江健三郎を中心として
中国社会科学院外国文学研究所研究員・許金龍（通訳・桑島道夫）
第９回例会（2008・３・21）
小説と映画のあいだ――〈山の音〉を聞かない信吾　田村　充正
第10回例会（2008・10・22）
『ミツバチのささやき』論
――『キャットピープルの呪い』と『アラバマ物語』との関係において
花方　寿行
第４回講演会（2008・12・12）
コミュニケーションなき結婚　楊　逸
第11回例会（2009・１・22）
『ミンゴ・レブルゴの歌』からみた15世紀末カスティーリャ王権
大原　志麻
ポール・ヴァレリーの翻訳体験をめぐって
――《Variations sur les *Bucoliques*》を読む　安永　愛
第12回例会（2009・２・19）
中勘助『銀の匙』仏語訳の試み　マリー・フーシェ
第13回例会（2009・７・16）
フィリップ・ポンスと日本　安永　愛
第５回企画（2009・11・５）
よしもとばななさんとはなそう!!
第14回例会（2010・３・18）
サム・ペキンパー監督『ワイルド・バンチ』の原型としての
カルロス・サウラ監督『盗賊のための涙』　花方　寿行
川端康成「水晶幻想」と新心理主義文学　田村　充正
第15回例会（2010・５・27）
Karl Marx と Louis Zukofsky
“Animate Instruments”へと化す人間と事物をめぐって　山内功一郎
第16回例会（2010・７・22）
異文化間恋愛と「ロマンティックな恋愛」の罠
――Gertrudis Gómez de Avellaneda, *Sab*（1841）について
花方　寿行

第17回例会（2010・10・７）
フランコ期における政治と映像文化
——Bienvenido a Mr. Marshallを通して　大原　志麻
第６回講演会（2010・12・４）
（学内講演会）
新著『我的日本語』をめぐって　リービ英雄
（学外講演会）
日本語の人生　リービ英雄
第18回例会（2011・１・27）
サド侯爵の翻訳家としての澁澤龍彦〜言葉のオルガスムと法律の不幸
スティーヴ・コルベイ
第19回例会（2011・２・３）
長田秋濤訳『椿姫』の恋愛表現をめぐって　今野喜和人
第７回講演会（2011・10・27）
翻訳家にとって〈倫理〉とは何か　野崎　歓
第20回例会（2012・７・19）
PalmerとPetlin
詩人と画家のコラボレーションを通して考察される倫理　山内功一郎
第８回講演会（2012・11・17）
文学作品の映画化をめぐって　中条　省平
第21回例会（2012・11・26）
フランスにおける日本マンガの翻訳の現状　ジュリアン・ブーヴァール
第22回例会（2013・1・31）
法と歴史と真実というフィクション
——松本清張「日光中宮祠事件」『小説帝銀事件』
『黒い福音』を視座にして　南　富鎮
法の侵害か、モラルの侵犯か
——映画『ノスフェラトゥ』と原作『ドラキュラ』をめぐる考察
花方　寿行
第23回例会（2013・７・25）
ロベール・バダンテールの『死刑執行』と加賀乙彦の『宣告』の死刑廃止論についてのディスクール
——デリダの1999年〜2000年ゼミの第２と第３セアンスをめぐって

スティーブ・コルベイ

第９回講演会・特別企画（2013・11・18）

（学内講演会）

母語の外に出るということ　多和田葉子

（リーディング・パフォーマンス）

雲をつかむ言（ことば）／雲を飛ばす音　多和田葉子＋高瀬アキ

第24回例会（2014・１・30）

ル・ボンの民族心理学の東アジアへの受容

——李光洙・夏目漱石・魯迅を中心に　南　富鎭

韓国映像文化における歴史イメージ　大原　志麻

第25回例会（2014・６・26）

ミラン・クンデラにおける越境とローカル性　田中　柊子

第26回例会（2014・７・31）

ポストメディアと翻訳　スティーブ・コルベイユ

研究会主催講演会（2014・12・２）

言葉と音楽の出会い

——R. シュトラウス「ばらの騎士」をめぐって　鶴間　圭（音楽評論家）

第10回講演会・公開シンポジウム（2014・12・14）

創作と翻訳の罪と悦楽

講演者：中村文則（作家）＋野崎　歓（東京大学）

聞き手：トーマス・エゲンベルグ、スティーブ・コルベイユ

第27回例会（2015・５・21）

言語的主観性・間主観性と翻訳　大薗　正彦

第28回例会（2015・７・９）

中上健次とレヴィ・ストロース

——短編連作集『熊野集』「海神」をめぐって　渡邊　英理

第29回例会（2015・12・17）

「漢字ノ紙」を読む

——吉増剛造のメディア横断的実践　山内功一郎

戦後文学拾遺

——「夢十夜」「蜜柑」「走れメロス」の典拠をめぐって　南　富鎭

第11回講演会・公開シンポジウム（2016・３・９）

舞台にのぼる翻訳（La traduction sur le plateau）

岩切正一郎（国際基督教大学）

第30回例会（2016・６・23）

谷崎潤一郎と翻訳――『潤一郎訳源氏物語』まで　中村ともえ

第12回講演会・公開シンポジウム（2016・11・17）

おくのほそ道を絵でたどる――蕪村から近代へ

芳賀　徹（静岡県立美術館館長）

第１回『翻訳の文化／文化の翻訳』第12号　合評会（2017・３・22）

第31回例会（2017・６・１）

黒澤明『羅生門』の受容をめぐって　今野喜和人

第13回講演会・公開シンポジウム（2017・７・28）

翻訳における愛 Love in Translation　アンドレア・チェッリ

第14回講演会・公開シンポジウム（2017・12・21）

ケベック州のBDと他メディアとの連帯～音楽、映画、アニメ

シルヴィ＝アンヌ・メナール

第15回講演会・公開シンポジウム（2018・１・25）

（学部内講演会）

町田康さんを囲んで　町田　康

（学内講演会）

作家・町田康　訳す、語る、歌う。　町田　康

第32回例会（2018・６・21）

“Who will count, who will claim?”

―Michael Palmerの近作における「アンチ・エレジー」の展開

山内功一郎

古代庭園文化の受容と翻案―

―寝殿造庭園と名所の発生　袴田　光康

第16回講演会・公開対談（2019・３・４）

演劇、変わり得ることへの希望

対談：宮城　聰（演出家）＋本橋哲也（東京経済大学）

第33回例会（2019・８・８）

テレビゲーム『イース』における異世界の背景

ローベル・ロラン（慶應義塾大学商学部）

翻訳・アダプテーションに関わる法的概念・論点の整理

原田伸一朗（静岡大学情報学部）

第17回講演会（2020・２・15）
（学部内講演会）
吉増剛造の現在　　吉増　剛造
（学内講演会）
火ノ刺繍へ、火ノ刺繍カラ　　吉増　剛造
第34回例会（2020・６・18）
『源氏物語』のアダプテーション―演劇と映画の中の藤壺と明石の君
中村ともえ（静岡大学教育学部）
第35回例会（2020・９・17）
人種差別者が書いた小説を改作することへの問い
～多様なメディアにおけるH.P.ラヴクラフト文学の展開をめぐって～
スティーヴ・コルベイユ（聖心女子大学）
第18回特別講演会～3.11に考える「翻訳」という行為～（2021・３・11）
カタストロフの時代と『ヴェールを被ったアンティゴネー』
伊達　聖伸（東京大学）
創作としての翻訳行為―何が伝わり、何を共有できるのか　　関口　涼子
第36回例会（2021・８・５）
「ジェニーもの」：小説『ジェニーの肖像』の少女マンガにおけるアダプテーション
ローベル柊子（東洋大学）
『鬼滅の刃』における鬼イメージ
――伝統的イメージからの断絶と継承――　　花方　寿行
第37回例会（2021・12・23）
混濁する能――倉橋由美子「長い夢路」(1968)　　原　瑠璃彦
第38回例会（2022・３・４）
タロットカードのアダプテーション　　今野喜和人
第19回特別講演会（2022・３・18）
加藤周一と翻訳の問題：
日本の戦後知識人作品のフランス語での翻訳紹介を通して
ルボフスキ伊藤綾（ジュネーブ大学）
第20回講演会（2022・７・７）
（学部内講演会）
野谷文昭氏を囲んで　　野谷　文昭
（学内講演会）

マヌエル・プイグ『蜘蛛女のキス』とジェンダー　野谷　文昭

第39回例会（2022・10・６）

ことばによる「捉え」とアダプテーション　大薗　正彦

桜木紫乃――紹介と概観　南　富鎮

第21回講演会・公開シンポジウム（2023・３・４）

多言語の中の日本語小説　平野啓一郎